

にげ 歴民だより

第7号（平成26年1月）

発行：新座市立歴史民俗資料館
新座市片山一丁目21番25号
電話 048-481-0177
FAX 048-481-0149
Eメール rekimin@city.niiza.lg.jp

あけましておめでとうございます。本年も“歴民だより”をよろしく申し上げます。

昨年を振り返ってみますといろいろなことがありました。

5月から白瀬中尉がかつて当市に住んでいた頃の手紙や南極探検を記録したアルバムなどがお借りできましたので、久しぶりに一部を常設展示したところ大勢の方にご覧いただきました。また、7月からは土曜・日曜日に館内のガイドをボランティアさんのご協力をいただき来館者の皆さんに大変好評をいただいております。

園庭にはボランティアさんにより昔から言い伝えられている薬草園を彷彿させる薬草が数種類植えられ、今年の開花が待ち遠しい限りです。

主催事業につきましては、文化財めぐりを復活させるなど皆様に参加していただける魅力ある講座の実施に努めるほか、展示コーナーのワンポイント解説などさらに充実させるとともに、館のPRにも努めていきたいと思っております。住んでいる町の歴史を知るためにも、どうぞ来館ください。お待ちしております。

資料館トピックス（10月～12月）

★「歴民の集い」を開催しました！（午前の部：^{かっちゅう}甲冑着用体験）



写真：大人に交じって重い鎧を着た若武者さん。

毎年「文化の日（11月3日）祝日」は開館をしていますが、2年前から市民の皆さんとの交流を図ることを目的に新企画として「歴民の集い」を開催しています。平成25年度も開催し、盛況のうちに終わることができました！

午前中は手作りのレプリカ甲冑着用体験。レプリカといえども重さは10キロ以上ある本格的なものです。

研修室で日本の甲冑の変遷について一通りの説明を終え、早速着付け開始。皆さんその重さと動きにくさに驚き、戦国時代当時の武士の大変さを実感された様子でした。



写真：着付けや解説に大活躍の自前甲冑武者の皆さん。

今回は関東各地の時代まつりを中心にボランティアとして活躍している近隣の自前甲冑武者3人が応援に駆け付け、正しい着付けの方法や甲冑の部品の役割について解説し、様々な装備品について、実演を交えながらの解説は熱が入り、中身の濃い着用体験となり参加者も大喜びでした。

★「歴民の集い」を開催しました！（午後の部：歴史講座）



写真：講座の様子

午後の部は、講師に日本大学准教授の鍋本先生をお招きして、武蔵野新田開発をテーマにした歴史講座を開催しました。

松平信綱が仕えた三代将軍徳川家光の時代を中心に、幕藩体制史を研究している先生は、江戸初期の人に人口急増による食糧不足に伴う対策としての武蔵野新田開発の背景や、一方では河川改修など防災対策を含めた全般的な開発の話に及ぶなど、興味深い内容を数少ない史料を引用しつつ分かりやすく解説してくださいました。

質疑応答も盛んに行われ、あっという間の2時間でした。

★寄贈ありがとうございました！

常設展「昭和の暮らし」を一層充実させるために「歴民だより」でご協力をお願いしている品物のうち、「陶器製湯たんぽ」が市民の方から寄贈されました。



金属製の物は今でも数多く残されていますが、陶器製の湯たんぽは非常に珍しいものです。「昭和の暮らし」コーナーに展示していますので、どうぞご覧ください。



他にも市民の皆様から寄贈されたものが多数ありますが、陶器や金属など「くん蒸」（虫害やカビから資料を守る作業）の必要性が薄いものから順次展示していく予定です。

★『市民文化財講座』開講迫る！

主催事業「市民文化財講座」を2月22日（土）と3月1日（土）の各土曜日の両日にわたって開催します。今回の主テーマは「郷土をめぐる支配者たち」で、第1日目の2月22日（土）は、「武蔵国の起こりと新羅郡設置からみた支配体制」と題して、大東文化大学文学部准教授の宮瀧交二氏から講義いただきます。また第2日目の3月1日（土）には「近世における幕藩体制と支配構造」と題して、國學院大学文学部教授で本市文化財保護審議委員長の根岸茂夫氏による講義が行われます。希望される方は、2月1日（土）から直接又は電話で当館へ申し込みください。

探しています！

～常設展「昭和の暮らし」展示品の充実にご協力ください！～

平成24年度から「昭和の暮らし」の常設展示を実施していますが、残念なことに次の品物が収蔵されておらず、引き続き皆さんの寄贈を募っております。

- ①七輪 ②蠅帳（食卓用の蚊帳） ③自在かぎ（囲炉裏に吊るもの）

ご協力いただける方は、事前に歴史民俗資料館にご連絡ください。お待ちしております！